

言語活動を充実させ、

児童の思考力・表現力を伸ばす指導方法の工夫

秩父市立西小学校

1 はじめに

本校は、昨年度より3年間、埼玉県教育委員会より指定を受けて、地域に応じた学力向上推進事業に取り組んでいる。テーマは「言語活動を充実させ、児童の思考力・表現力を伸ばす指導方法の工夫」である。そこで、2年次の取組として、重要課題をA『基礎学力の向上』B『思考力・表現力の育成』の2点にしぼり取り組んでいる。

2 重要課題A『基礎学力の向上』を解決する取組

(1) 組織力の向上：校内研修（プロジェクト会議）の工夫・改善

ア 今年度の工夫

職員をプロジェクトチームとして4チームに分け、課題解決のための取組を行う。

（授業改善、家庭学習・家庭との連携、実態把握・調査研究、学習環境整備）

教職員が共通理解、共通行動をするためにプロジェクトチームのリーダーをとおして指示を伝え、意見を吸い上げる。

イ 手立て〈授業改善〉

基礎学力定着に向けた指導力向上を目指す。主に、学習課題、学習内容の提示から目的意識をもたせ、学習過程が明確にわかる板書指導や授業力を向上させる。そのために、研究授業を通して授業改善を図る。すべての研究授業に指導者を招聘し、指導を仰ぐ。また研究授業を行う上で、それぞれ模擬授業、先行授業を行う。模擬授業には、指導者を招聘し、授業案作成についての指導を仰ぐ。また先行授業は同学年別学級で行い、校内研修として授業公開を併せて行う。学年の教員が全員授業を公開する形をとる。模擬授業6回、先行授業6回、授業研究6回の計18回を全校で行う。



(2) 家庭学習習慣の定着

ア 今年度の工夫

- ・昨年度検討し今年度当初作成した「家庭学習の手引き（冊子）」の活用率100%を目指す。
- ・目標家庭学習時間を学年別に設定し、取り組ませる。

イ 手立て

- ・年間3回、保護者にアンケートを取り、手引きの活用状況を調査する。
- ・宿題をする方法やどのような内容の家庭学習に取り組めばよいかなど、児童や保護者が毎日使用できるような手引きになるように内容を精査、改善する。
- ・家庭向けの学力向上だよりを毎月発行する。
- ・ホームページ等を利用し、「学習の手引き」を家庭（パソコンやスマートフォン）でも見られるようにし、活用率100%を目指す。

(3) 学習支援員の活用

ア 今年度の工夫

昨年度に引き続き学習支援員を活用し、学習意欲の向上を図る。特に各調査の国語、算数の意欲を今年度以上にする。

イ 手立て

学習支援員との連携をどのようにしたら効率がよいか等、学習支援員の活用方法について、実践をもとに研究を重ね、どの支援員も同様の支援ができるように「支援員用マニュアル」を作成する。

(4) 児童の人間関係の把握

ア 今年度の工夫

Hyper-QU を年間 2 回実施し、結果分析を通して学級内の人間関係等の把握を行い、授業における各活動に生かすとともに、学習に対する意欲付けの参考資料とする。

イ 手立て

Hyper-QU の 2 回 の実施（6 月・2 月）によって、その変化を分析する。またそれぞれの結果分析により、授業において円滑なペア、グループ活動等が可能になるように十分に活用する。

3 重要課題B『思考力・表現力の育成』を解決する取組

(1) 思考力・表現力を高める西小学びのスタンダードの確立

ア 今年度の工夫

主に国語、算数において、校内研修をとおして全教員の共通理解のもと、授業改善を行い、授業の流れ、進め方を統一する。

～西小学びのスタンダード～

1 問題把握	6 考えの説明、練り上げ (全体・グループ等で話し合い 比較し合う場)
2 答えの予想	
3 問題設定	
4 解決の見通し	7 まとめ
5 自力解決	8 練習
	9 振り返り

イ 手立て

授業の進め方、流れを右上のようなものにする。

(2) ノート指導の充実

ア 今年度の工夫

ノート指導を工夫・改善する。（児童は板書と一体化したノートを取り、学習の振り返りや既習事項を生かせるノートとする。）

イ 手立て

- ・国語と算数のノートのとり方は学校全体で統一して行う。
- ・統一されたノートの書き方、作り方は、プリントされた学習問題をノートに貼り、学習課題を青で囲い、まとめを赤の色で囲う、最後に振り返りとして自分の言葉で学んだことを書かせる。

(3) 学習環境の整備

ア 今年度の工夫

掲示物を充実させ、思考力・表現力向上に生かす。

イ 手立て

教室側面に「算数コーナー」を設け、児童のノートや単元のまとめ等を掲示する。

(4) 業前の取組の充実

ア 今年度の工夫

短作文を用いて思考力・表現力の育成をする。聞く力、書く力の向上を目指す。

イ 手立て

- ・朝会での校長講話を聴き、テーマや感想をカードに書く。（年間 1 3 回）
- ・朝会后教室で 3～5 分で作文を書く。「自分の言葉で書く」ことを目標とする。
- ・担任はよい作文を校長室前に掲示する。（校長がコメントを記入する）

4 おわりに

地域に応じた学力向上推進事業の最終年度（3 年次）に向けて現在、効果を検証中である。現段階での顕著な成果としては、つぎの 3 点が挙げられる。①研究を進めるに当たり、『教師が子供の変容に視点を置き、課題に迫ろうとする姿勢』の徹底。これは、子供の伸びを見取り、次の課題へステップアップするためには重要なことである。②国語及び算数では、『授業の流れをスタンダード化』した。1 年生から 6 年生まで同じ流れで授業が展開することは、教師の授業力アップと児童の思考力アップにつながる鍵である。③『ノート指導』の徹底。特に算数ノートは、板書にリンクして振り返りに生かせるものとなっている。

来年度への課題としては、①より一層の『授業力アップと学習規律の徹底』②『家庭学習の充実』③学力向上へ向けて、『家庭の協力』が挙げられる。

（担当 主幹教諭 高橋 天）

安心・安全な学校の創造 ～互いを尊重する学習集団を形成できる子の育成～

秩父市立南小学校

1 はじめに

南小学校では昨年度より、ISS（International Safe School）の国際認証に向けた取組を行っている。セーフスクールとは、体および心のけがや事故、いじめ等を予防することによって、子どもたちが安心して安全で健やかな生活を送ることができる学校づくりを進める活動のことである。

セーフスクールの取組を進める中で、特に心の健康をはぐくむために、ライフスキル教育を推進している。市教委主催のライフスキル研修会へ参加するとともに、校内研修でもライフスキル教育を取り上げ、だれもが授業できるための研修を行っている。

2 ライフスキル教育研修

(1) 第1回要請訪問 ライフスキル教育について（6月30日実施）

指導者 秩父市教育委員会 栃木 法雄 指導主事

ア 研修内容

- ライフスキル教育の授業について（模擬授業）
- ライフスキル教育について
- ライフスキル教育の指導法について
- ワークショップの感想

イ 模擬授業「相手を傷つける言動、励ます言動」

(ア) ねらい

- 他の人を傷つけるのではなく、励ます方法を見つける。

(イ) 主な流れ

- 今日の言葉
- 励ます・ほめる言葉や行動、傷つける・けなす言葉や行動についてのワークショップ
- グループ発表

ウ 研修後の主な意見、感想等

- ライフスキル教育の授業の流れが理解できた。
- 学級に応じて取り組める内容のスキルから、授業を始めていきたい。
- ライフスキル教育の基本は繰り返すこと。即効性はないが、長くやって身につける。

(2) ライフスキル研究授業

第2回要請訪問 第6学年2組「じょうずな話の聞き方」（10月22日実施）

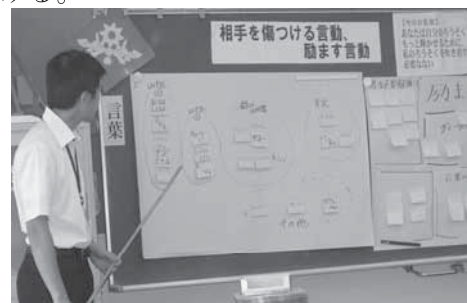
（指導者 家内 慧 教諭）

ア 本時のねらい

- 子どもたちが、話を聞くことが、他者と関わるための最も本質的なスキルであると認識できるようにする。

イ 本時の主な流れ

- よい話の聞き方とよくない話の聞き方を書き出し、発表し、分類する。
- 話を聞く態度について確認し、ロールプレイを行う。



- 二人組になり上手に聞く練習をし、まとめる。
- ウ 研究協議会ででた主な意見等
 - 相手を認めることが、子どもたちの心の安全につながる。
 - 教えるべきことは教え、活動の時間・スキルを身につける練習時間をしっかり確保する。慣れるまでには時間がかかる。
 - 授業で作成した資料を教室掲示し、スキルの定着を図り、日常生活に活かす。



(3) ライフスキル授業

第3学年1組 「友だちをつくる」“道具” (11月18日教育支援担当訪問で実施)
(指導者 堀口 絹代 教諭)

ア 本時のねらい

- よい友だちになるために必要なスキルを学び、生活の中で生かせるようにする。

イ 本時の主な流れ

- 友だちの優しい行動を書き出し、友だちを作るためのスキルにしたがって分類する。
- 友だちになるためのスキルをあげ、人型に書き入れる。
- グループで友だちの輪を作る。



3 おわりに

(1) 成果

- ライフスキル教育の研修を行うことで、どのクラスでも授業を行うことができた。
- 児童の発表する姿が多くみられた。また、作成した資料の教室掲示で、日常化が図れた。
- 友だちとの関わりを多く持つことが、子どもたちの心の安全につながり、セーフスクールの取組にもつなげることができた。

(2) 課題

- あいさつ・返事のスキル等、朝会等でも繰り返し指導しているが、さらに指導していく必要がある。
- 市教委主催のライフスキル研修会への参加を増やし、より進んで授業に取り組む必要がある。

(担当 教諭 太幡 誠)

伝え合う力を身につけさせる指導の工夫 —国語科を中心として—

秩父市立尾田蒔小学校

1 テーマの設定理由

- (1) 児童の実態から
○自分の言葉で豊かに自己表現したり、相手の立場や考えを的確に理解する力が十分に育っていない。
- (2) 保護者の要望から
○コミュニケーション能力や話し合う力を育て、確かな学力を育成してほしい。
- (3) 教育課程から
○言語活動の充実、児童の思考力・判断力・表現力を育む基盤である。

2 伝え合う力とは

「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力」(小学校学習指導要領国語編)

3 めざす児童像

- (1) 学校全体のめざす児童像
相手の思いや考えを聞き、自分の思いや考えを話せる子
- (2) 低・中・高学年別のめざす児童像
低学年 … 友だちの考えをしっかりと聞き、自分の考えをきちんと話せる子
中学年 … 友だちの考えをしっかりと聞き、自分の考えを筋道を立てて話せる子
高学年 … 友だちの考えを正確に聞き、自分の考えをわかりやすく話せる子

4 研究の仮説

- (1) 一人一人の児童が実際に発表する、聞く活動を授業に位置づけ、できるだけ多く体験させれば伝え合う力が育つであろう。
- (2) 話し合いを自分で、また、相互に評価できる工夫をしていけば、伝え合う力が育つであろう。
- (3) 全教育活動で発表する、聞く活動を充実させていけば、伝え合う力が育つであろう。

5 研究の手立て

基礎・基本の定着

- ・繰り返し指導 ・ドリル学習の徹底 ・補充指導 ・定着の確認(単元テスト、全校一斉漢字・算数テスト) ・家庭学習や朝自習の充実

授業の改善

- ・「聞く、話す、書く、読む」活動の充実 ・聞きたい、話したいと思える授業展開や活動の場の工夫 ・ペア学習やグループ学習の充実

言語活動の充実

- ・作文発表(始業式、終業式) ・話し合い活動(クラブ、委員会活動、縦割り班活動)
- ・朗読集会 ・あいさつ運動 ・一言、一分間スピーチ ・「6年生を送る会」での出し物
- ・全校スピーチ大会

読書活動の整備

- ・年間50冊 ・読書月間の取組

言語環境の整備

- ・廊下等の掲示 ・国語コーナー

学習習慣の育成

- ・姿勢、聞く、返事、学習の準備



全校スピーチ大会

家庭・地域との連携

- ・学校、学級だより
- ・授業参観、懇談会
- ・家庭訪問 等

6 専門部の取組

(1) 授業研究部

- 授業において研究テーマに迫る工夫や手立てを考え、実践する。
 - ・ 指導案の形式作成
 - ・ 「聞く、話す、書く、読む」活動の充実
 - ・ 「話し方名人」「聞き方名人」の活用 等

(2) 調査統計部

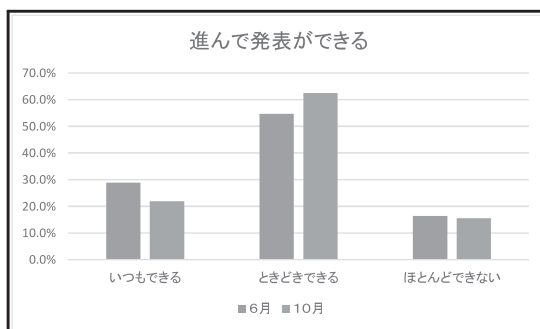
- 国語科における児童の実態把握に努める。
 - ・ アンケート作成
 - ・ アンケートの実施、集計、考察（2回）

(3) 言語環境部

- 子どもの意欲を高める学習環境の整備に努め、伝え合う力を育む。
 - ・ 月ごとに詩の掲示（クラスで読み合わせ、月末に昼の放送で代表児童が朗読）



今月の詩



アンケート抜粋

7 授業実践

- (1) 4学年2組 研究授業（第1回要請訪問） 10月21日（火）

単元名・教材名 まとまりやつなかりに気をつける
「花を見つける手がかり」（説明文）

- (2) 1学年1組 研究授業（第2回要請訪問） 11月11日（火）

単元名・教材名 じゅんじょよくかく
「のりもののことを しらせよう」



1年の授業（ペア学習）



4年の授業（グループ学習）

8 成果

- ペア学習やグループ学習を段階的に指導し、体験をさせていくことで自信をもって発表できるようになってきた。
- ワークシートを活用することにより、学習の見通しをもち主体的な学習ができた。そして、自分の考えを進んで発表できた。
- 自己評価、相互評価を工夫したことにより、相手を意識して意欲的に発表することができた。
- 児童の実態をアンケートで実施することにより、日々の指導に役立てることができた。
- 今月の詩を全校で共有することにより、覚えるくらい暗唱したり、詩の放送発表に関心をもって聞いたり、毎月楽しく取り組むことができた。

（担当 教諭 田嶋 昇）

特別支援教育の視点に立った授業の改善 ～基礎学力の向上を目指して～

秩父市立原谷小学校

1 はじめに

今年度、本校では「特別支援教育の視点に立った授業の改善」をテーマに校内研修を行い、どの子にもわかりやすい授業を行うことで、基礎学力の向上を目指している。どの授業においても、すべての児童がわかる喜び、できる喜びを実感できる授業を目指し、配慮を要する児童にとっては「無いと困る支援」、他の児童にとっても「有効な支援」となるような工夫を考えながら授業改善に取り組んできた。

2 研究主題達成に向けての具体的取組

(1) 目指す授業を実現するための今年度の重点

ア 授業の構成や展開の工夫

- (ア) 授業の学習課題を明確にする。
- (イ) 授業の流れがわかる板書を工夫する。
- (ウ) 児童が主体的に自力解決できるようにわかりやすい授業を工夫する。
- (エ) 明確な指示をするための具体的な言葉がけを工夫する。

イ 教材・教具の工夫

- (ア) わかりやすい教材・教具を使用することで、授業の構成や展開の工夫を図る。
- (イ) 外国語活動、社会、理科を中心とした I T C 機器を活用する。
- (ウ) 言語だけでなく、視覚的に捉えられるような教材・教具の工夫を図る。

ウ 学習や生活のきまりづくり（授業を支える学級づくり）

- (ア) お互いを認め合い励まし合える学級をつくる。
- (イ) 児童が主体的に発表できるような工夫をする。
- (ウ) ルールを明確にし、学習や生活をとまどうことなくできるようにする。
- (エ) 身の回りの整理整頓を工夫する。

(2) 要請訪問等における授業研究

ア 第1回授業研究会（要請訪問 10月2日）

<第2学年 算数>

<形を調べよう（三角形と四角形）>

<研究テーマとの関連>

- 問題の図形を黒板に大きく拡大したものを提示し、文字だけでなく視覚的に捉えやすくする。
- 前時の学習が想起できるように、前時の学習内容を掲示する。
- 個に応じてヒントカードを用意し、問題解決を支援する。
- 自分の考えを書かせる活動の際に、説明できそうな図形について書けるように選択できるようにし、どの児童にも解決できるようにする。
- 友だちの考えに耳を傾けたり、自分の考えと比較したりできるようにし、認め合い励まし合える人間関係作りを工夫する。



イ 第2回授業研究会（要請訪問 11月10日）

＜第5学年 体育＞

＜跳び箱運動＞

＜研究テーマとの関連＞

○ 児童が的確に活動できるように、明確な指示や理解しやすい言葉がけを行う。（視覚的にも残す。）

○ 明確な学習課題を提示するとともに、単元を通して授業の流れを同一にし、児童が取り組みやすいように配慮する。

○ スモールステップの場を設け、小さな成功体験を積み重ねることで、跳び箱運動の楽しさや喜びを味わわせ、意欲的に学習できるようにする。

○ 「技のどこを見ればいいのか」「どのような言葉がけをすればいいのか」がわかる『アドバイスカード』を作成し、児童が教え合いができるようにする。

○ 跳び箱運動の学習ルールを作り、すべての児童がとまどうことなく学習に取り組めるようにする。



ウ 第3回授業研究会（算数・数学教育研究会授業研究会 1月20日）

＜第3学年 算数＞

＜かけ算の筆算＞

＜研究テーマとの関連＞

○ 指示や課題等を理解できるように、授業の進行を毎時間同じパターンで行う。

○ グループ発表時には、ノートに書いたものを使用させ、視覚的にも理解できるようにする。

○ 自分の考えを発表する場面では、順序を表す言葉を使うことで、相手にわかりやすく説明させる。

○ 全体発表の前に3人のグループで発表させ、どの児童にも発表機会をつくる。友だちの考えのよいところに気づかせたり、わかりやすい説明に変えたりさせる。

○ 既習事項を生かすことで、どの児童にも自力解決をさせ、筆算につなげるための練り上げを行う。



3 成果と課題

(1) 研究の成果

ア どの子にもわかる授業をするために、1時間の流れを明確にした授業が行われるようになった。「課題」「まとめ」は、どの授業でも明示し、「今日の学習で何をするのか。」「今日の学習で何がわかったか。」をはっきりさせた。また、板書は、「1時間の授業の流れが見える板書」となるように、工夫改善が図られた。

イ 聞いただけでは、聞き流してしまったり、わからない児童もいるという認識で、視覚的に捉えさせたり、視覚的に記憶に残したりする工夫が見られるようになった。

ウ 支援が必要な児童がいるという認識を持ち、授業改善が図られるようになった。

エ 授業研究を通して、学年・ブロックでの協力体制の充実が図れた。

(2) 今後の課題

ア 子どもの学びを丁寧に見取り、実態に合わせた教師の働きかけや教材・学習活動を充実させていく。

イ 目指す授業のイメージを共有するとともに、教科の枠を超えて、手立ての有効性を検証できるようにする。

4 おわりに

児童の基礎学力を向上させるためには、授業を改善することが不可欠である。今後も、児童一人一人が輝くよう全職員で授業改善に取り組んでいきたい。

（担当 主幹教諭 大澤伸一）

確かな学力を身につけ、生き生きと 表現活動に取り組む児童の育成をめざして

秩父市久那小学校

1 はじめに

本校は、昨年度の研究を引き継ぎ、研究主題を「確かな学力を身につけ、生き生きと表現活動に取り組む児童の育成をめざして」とし、国語科を中心として研究に取り組んできた。

2 研究の構想

学校教育目標

- ◎豊かな心を持ち、自ら気づき、考え、
行動できる児童の育成
- なかよく
 - かしこく
 - たくましく

研究主題

「確かな学力を身につけ、生き生きと表現活動に取り組む児童の育成をめざして」

主題設定の理由

全国学力・学習状況調査等の結果や本校の児童の実態から、さらに読み書きや発表等の能力や技能を高めるとともに、基礎基本を確実に定着させるため、言語活動をいっそう充実することが大切であると考え、本研究主題を設定した。

研究の仮説

読解力と表現力のねらいを明確にし、読み取ったことを表現させる授業を展開していけば、生き生きと活動に取り組む児童の育成が図れるだろう。

- ①読み・書きなどの基礎的、基本的な内容をくり返し学習することで基礎学力が定着するであろう。
- ②各教科・領域を通して「読む力と書く力の育成」に努めれば、文章を理解し、読み取りができ、自分の考えを表現できる児童が育つであろう。
- ③「久那っ子発表の仕方」「声のものさし」などにより学習規律を確立することにより、落ち着いて学習に取り組むことができるであろう。
- ④「音読カード」「全校漢字テスト」「音読発表」「視写活動」「読み聞かせ」などの「全校的活動の推進」に努めれば、読み書きや発表の技能を高め、基礎・基本を確実に定着させ、読解力向上につながる基盤をつくることができるであろう。
- ⑤多くの本とふれ合えるように、「読書活動の充実」に努めれば、読書する習慣が身につき、読解力を深く支える基礎的な力が育まれるであろう。
- ⑥言葉に対する興味を持たせ、それを調べる環境を整えれば、言葉に対する理解が深まるであろう。
- ⑦自分の思いや考えを書いてまとめる場を確保すれば、自分の考えをじっくりと考え直しながらまとめていくことができるであろう。
- ⑧伝えたい相手を決めて、発表の場を工夫すれば、相手意識を持ち、自分の考えを表現しやすくなるであろう。

研究の内容

- ア 場面の様子がよく分かるように読みを深めさせるための手だて
- イ 順序よく自分の考えをまとめるための手立て
- ウ 相手を意識し表現させるための手だて
- エ 全体を通しての手だて（国語の力を高めるための補助として）

3 具体的な取組

無理のないように代表による研究授業を計画し、6月に高学年部会の研究授業を実施した。全員で研究協議を行い、授業の質を高め、授業改善に取り組んだ。また、日々の授業に生きる約束の検討や、国語力の向上に結びつく学校全体での取り組みを実施した。

本年度、担任及び教務主任による全員公開授業を実施して教師力を高める研修を行った。

<第4学年要請訪問>

(1) 高学年の取組(作文)

第4学年 「物語の作り方をくふうしよう」

ア 具体的な手立て(主なもの)

○読み方の工夫(範読の後について読む、拍子読み、暗唱など)

○久那っ子発表の仕方・声のものさしの徹底

○順序を意識した文章構成(書く)

○ペア学習、グループ学習での話し合い活動

イ 成果

○作成した場面メモをグループ内で読み合い、コメントを記入し合うことで、よりよい場面メモにすることができた。よいところやアドバイスをまとめて確認した。

○班長:(まとめる)、副班長:(道具係)、司会係:(進行)とすることで、話し合いの手順が分かり、発表力や表現力が育ってきた。

○「久那っ子発表の仕方」「声のものさし」の徹底を図ることができた。

○毎日、音読カードを活用することで、自信ある読みができた。

(2) 全校の取組(主なもの)

ア 音読カード(通年)

イ 朝読書

(水曜日、2・5週月曜日)

ウ 家庭学習の手引きの活用による奨励と保護者の啓発 児童の家庭学習等の点検

エ 読み聞かせ(本読みボランティア)

オ お話の会(市立図書館よりGT)

カ 学力アップタイム(火・金曜日朝自習)

キ 音読発表(各学年)

ク めあてを持たせた読書活動の工夫

ケ 各教室国語コーナーの活用

コ 写し丸くんの活用による視写の取組など

サ 第2火曜日朝自習で辞書引き(3年生以上)

シ 俳句・短歌への取組



4 成果と課題

(1) 研究の成果

○4つの手だてによる授業改善により、児童の興味・関心と表現力をいっそう向上させることができた。

○効果的なワークシートの作成や、視聴覚機器(教材提示装置・プロジェクター)の積極的な利用により、コンピュータを含めたICT活用に取り組めた。

○児童が家庭学習や自学について、よりよく取り組めるようになった。

1・2学期…学年×10分+10分の目標達成率83%(全校平均)

○読み聞かせ活動やお話の会、読書活動、俳句作り、辞書引き活動、音読発表等により、国語に対する興味・関心をいっそう高めることができた。

○第6学年の全国学力学習状況調査では、国語において、国や県の平均を上回ることができた。

(2) 今後の課題

○国語学力調査や全国学力学習状況調査等の検証分析により、主として話すこと・聞くこと、目的に応じて書くことに課題があることがわかっている。そのため、話の中心を的確に聴き取ることや辞書の日常的な利用、配当漢字の読みの力を高める音読と書いたことの発表等を繰り返し指導し、実践化していくことが大切である。

○算数では、主として活用の分野での学力向上を着実に目指していきたい。

5 終わりに

学校課題の解決に向けた取組ができた。少人数だが若い教師も加わり、全職員の努力と協力により、授業力を向上を目指す校内研修を実施することができた。また、所有する教具やICTの効果的な活用により、楽しく実りある研修にすることができた。今後も更に授業改善につながる研修にしていきたい。

(担当 教諭 齋藤春則)